

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年五月度 入選句（投稿総数二千九十五句・一般投句数五百九十八句）

特選

清明の朝を濃くする生玉子

東京都世田谷区 関戸 信治

清明は二十四節気の一つで四月四日から十九日頃。すべてのものが清らかで生き生きとする。若葉が萌え、花が咲き、鳥が歌い舞う。生命の輝く季節の到来だ。

生玉子はいのち・栄養の塊である。それを朝食に頂く。朝を濃くするという表現がユニーク。

駅へ駅へ靴音たかく朝桜

神奈川県川崎市 佐藤 廣枝

出勤の情景であろうか。駅までの桜の並木道を少し早足で歩いている。

駅へ駅へのリフレイン。靴音たかくで作者の気分が伝わってくる。朝の清しい空気の中、桜の仄かな色合いを見て活力を貰った。

遠足の左の靴に鳥の糞

大垣市 福永 峰子

脱ぎ捨てられた子供の靴についた鳥の糞をクローズアップさせることで、遠足の一日の様子をイメージさせる。走り回り、寝転び、弁当を食べ、自然いっぱいのところ楽しく過ごしたのである。子供は鳥の糞に気付いていないようだ。

秀逸

踏青や防犯カメラににらまれて

大垣市 棚橋 みさを

結びの地桜しべふる投句台

栃木県那須塩原市 鈴木 文子

蕉翁の自称弟子なり花の風

奈良県奈良市 梅本 幸子

ブーメラン春を回して飛びゆけり

大垣市 新町 恵子

鉄瓶の滾り八十八夜寒

大垣市 臼井 秀子

時太鼓打ちてしばしを春の城

京都府宇治市 岡本 オラ

新緑の光集めてたらい舟

三重県四日市市 服部 邦子

春愁やネクタイ少しゆがみをり

大垣市 高木 歌佐

ひとり旅ぺんぺん草を鳴らしけり

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

筍の土のぬくみを落しけり

愛知県西尾市 金子 恵美

入選

照る山も陰なる山も芽吹き初む
桜見る母の歩みに気を配り
青葉より城のいらかの光映え
よく滑る城のスリッパ花三分
花いかだ墨俣城の風乗せて
路地と路地つなぐ路地あり花辛夷
山椒の芽人さし指に香けり
さへづりて市政百年ことほげり
少年の急ぐでもなし春の雨
雲の峰水を求めて街をゆく

大垣市	棚橋	みさを
愛知県碧南市	古井	恵
京都府京都市	洲崎	行男
各務原市	星河	ひかる
愛知県知多市	川瀬	美佐子
東京都世田谷区	関戸	信治
福井県敦賀市	山田	美千代
奈良県奈良市	梅本	幸子
大垣市	町野	眞佐子
多治見市	嶋中	清徳

入選

まだとまるもの無き狭庭春の蝶
みどり児の帰るマンション若葉萌ゆ
蜜蜂を野良着の肩に乗せ帰る
青麦のそよぎ初めたる朝の風
おだやかに夜明けを映す春障子
風薫る引込線の貨車長し
春昼や子を寝かす手の眠りたる
車いすで行けぬ道あり蛇莓
花の昼犬も聞き入る立話
音読を背ナで聴きをり春灯

大垣市	加藤	祐子
大垣市	佐竹	露子
不破郡垂井町	西田	厚堂
安八郡神戸町	高橋	泰
愛知県額田郡	平松	京師
大垣市	田口	貞善
三重県四日市市	後藤	允孝
大阪府東大阪市	森	佳月
不破郡垂井町	高木	巧み
静岡県藤枝市	山本	紫苑

選者吟

三成の眺めし城下花は葉に

武直